

# 行政視察等報告書

令和 元年 10月 9日

境港市議会  
議長 柗 康弘 様

会派名 公明党境港市議団  
代表者 田口 俊介



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	平成31年 4月 24日（水）～ 26日（金）
2 視察等先 及び内容	「鳥取県の介護保険を充実する会」研修 平成31年4月24日（水） ① 石川県白山市北安田町548-2 社会福祉法人 佛子園「B's・行善寺」 ・温泉施設を核とした「ごちゃまぜ」の介護・福祉・地域拠点について 平成31年4月25日（木） ② 石川県輪島市河井町式部208 社会福祉法人 佛子園「輪島 KABULET」 ・「空き家を利用した地域交流拠点・生涯活躍のまちプロジェクト」について
3 視察等議員	田口 俊介・足田法行
4 総 経 費	合計（2名）100,000円（一人当たり50,000円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

内容：＜視察研修＞

(1) 社会福祉法人 佛子園「B's・行善寺」

＜温泉施設を核とした「ごちゃまぜ」の介護・福祉・地域拠点について＞

【概要】「B's・行善寺」は2016年10月に社会福祉法人佛子園の新しい法人本部としてグランドオープンした施設で、元々、同法人の知的障害児入所施設や、法人施設を利用した県立の養護学校の分校などのあった、約4,700㎡の敷地に、法人発祥の寺院である「行善寺」と天然温泉や飲食施設の他、高齢者通所介護・短期入所施設と障がい者就労支援施設の2つの側面を持つ多機能コミュニティ拠点に加え、児童発達支援センター「B's こどもラボ」、0～2歳児を対象とした「B's 保育園」、プールやジムなどを備えた地域密着型の健康増進施設「ゴッチャ！ウェルネス白山」、診療所の「B's クリニック」といった様々な施設が集積している。

社会福祉法人 佛子園は、約60年前に開設した知的障がい児の入所施設がそのルーツであるが、当地に障がい者グループホームを建設する計画に対する地域からの反対の声が上がったことを機に、同法人とJOKA（海外青年協力協会）との共同で、障がい者だけでなく、子どもや高齢者を含めた地域の住民が誰でも利用できる温泉施設を核とした『B's プロジェクト（多機能地域医療福祉連携の住民自治モデル事業）』と銘打った施設を2015年に先行オープンした。

施設の核である「温泉施設」は、立地している町内の一部住民には無料で提供されており、飲食施設も併設されていることもあり、地域住民の憩いの場となっているほか、接客・配膳や厨房作業、浴場の清掃などは障害者就労継続支援事業A型の場となっている。

さらに、上記のような様々な施設を併設することにより、その施設の機能や持ち味を生かして、健常者・障がい者・高齢者、大人・こどもが区別なく「ごちゃまぜ」の「居場所」として地域に根付き、地域づくり、地域活性化に貢献している。

【所感】これまで、「福祉施設」のイメージは高齢者なら高齢者、障がい者なら障害者・・・と、考えがちで、それらの施設に地域や健常者がどのように関わるかという視点でとらえることがほとんどであったが、この佛子園の取り組みはそうした既存概念を打ち破るとともに、いわゆる「タテ割り」の概念に「ヨコ串」を入れることで、一つの拠点として「地域とともにある」施設となっていることに驚きと感動を覚えました。

また、施設についても、閉校となった養護学校の跡地と施設の一部（プールや体育館）を活用しているなど、本市における誠道小学校の今後の施設活用のヒントにもなりました。

## (2) 社会福祉法人 佛子園「輪島 KABULET」

＜「空き家を利用した地域交流拠点、生涯活躍のまちプロジェクト」について＞

【概要】ここも、1日目と同じく、社会福祉法人 佛子園とJOKA（海外青年協力協会）との共同プロジェクトとして、2018年4月にオープンした施設で、「B's・行善寺」と同じく、天然温泉と飲食施設を核とした拠点施設「輪島 KABULET」を中心に「ごちゃまぜ」の考え方を取り入れているが、こちらの特徴は施設を1ヶ所に集積するのではなく、徒歩圏内の主に「空き家」をリノベーションして活用している点で、拠点施設の近くにはサービス付き高齢者住宅「新橋邸」（全6戸）や、地域密着型ウェルネス施設、グループホーム、障がい者ショートステイ施設やカフェ、レストラン（訪問時は開設工事中）などが点在しており、より、「地域とともにある」共生社会実現のモデル事業である。

中心となる温泉施設には、高齢者デイサービスや放課後等デイサービス、また地域住民が自由に使えるフリースペースなども併設されており、「B's・行善寺」同様、地域住民の集う場としてにぎわっている。

空き家の利活用にあたっては、行政の支援制度を利用せず、法人の努力により地域の理解と協力を得ていったとのことで、これまで石川県を中心に「ごちゃまぜ」の考え方のもと、各地で事業展開をしてこられ、全国から地域共生のモデル事業と注目を集める同法人の勢いと熱意を感じた。

【所感】輪島での取り組みは、全国的な課題となっている空き家の増加による地域の空洞化に対する歯止めとなる効果もあり、単に福祉施策、介護事業というとらえ方でなく、地方創生や新たな「地域コミュニティ」の構築といった視点を持つことの重要性に気づかせていただいた。

現在、全国各地で佛子園とJOKAのジョイントベンチャーによる地方創生事業が進行しているが、鳥取県内でも南部町において同事業が進行中でもあり、事業の進捗を注視するとともに、本市における「地域共生社会」実現のための取り組みに大いに参考にすべきものと考えます。

報告者 : 田口 俊介